

感染研市民セミナー(第34回)

「くらしに役立つ病気の知識」

70年の時を経てーデング熱の再来

国立感染症研究所(村山庁舎)では、毎日を健康に明るく過ごすための情報を、分かりやすく提供する市民公開セミナー「くらしに役立つ病気の知識」をシリーズで開催しています。

デング熱は太平洋戦争中の1942年から1945年にかけて、日本国内(西日本)で20万人規模の患者が発生する大きな流行をおこしました。2014年の夏に、70年ぶりに東京でデング熱流行が発生しました。熱帯や亜熱帯で流行するデング熱が、なぜ今、日本でその流行が発生したのか?なぜ流行のホットスポットが代々木公園だったのか?デング熱とはいったいどんな病気なのか?風邪やインフルエンザの症状とはちょっと違います。デングウイルスはヤブカが媒介します。日本で媒介できる蚊は、ヒトスジシマカという蚊です。ヒトスジシマカに刺されないためにはどうすれば良いのでしょうか?ヒトスジシマカを減らすためにあなたに出来ることはないのでしょうか?あります!あなたに出来ること、あなたの町で出来ることを紹介します。

皆さま、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

講師:高崎 智彦(ウイルス第一部 室長)

(質問コーナーもあります。)

日時:平成26年11月15日(土)

10:00~11:15(受付は9時半より)

場所:国立感染症研究所村山庁舎

参加費:無料(申し込み不要)

お問い合わせ

東京都武蔵村山市学園4丁目7番1号

国立感染症研究所村山庁舎

TEL: 042-561-0771

FAX: 042-565-3315

